

2013.12.7



2013年のクラシック音楽界を振り返って



プログラム

2013年も残すところ僅かとなりました。CDコンサートとしては今年最後となりますが、名曲、名演の数々を聴きながら2013年の様々な出来事を振り返ってみたいと思います。

追悼演奏家特集は3月と7月に取り上げましたが、その他にも2月にフランスのオルガニスト、マリー＝クレール・アラン、アメリカのピアニスト、ヴァン・クライバーン、黒人指揮者ジェームズ・デプリースト等がこの世を去りました。今日は3月に亡くなったウィーンの名フルーティスト、**ヴォルフガング・シュルツ**(1946.2.26～2013.3.28)の演奏をお聴きください。シュルツは長年ウィーン・フィルの首席奏者として親しまれ、アンサンブル奏者としてもアンサンブル・ウィーン＝ベルリン等で活躍しました。今回は得意のモーツァルトです。

今年は話題の中心がヴェルディ、ワーグナーのアニヴァーサリー・イヤーに集中しましたが、他にも没後300年のコレリ、生誕100年のブリテン、没後50年のヒンデミット、プーランクのアニヴァーサリー・イヤーでもありました。今回は、これらを代表して**プーランク**の作品を取り上げます。プーランクはオネゲル、ミヨー等と共に活躍したフランス6人組のひとり。新鮮な和声の中にロマンティックなメロディを散りばめ、洒落た音色を持ち合わせた独特の作品を書き上げました。そんなプーランクの魅力に溢れた3つの作品をお聴きください。

2013年6月、44年の歴史に幕を降ろした**東京クワルテット**は、1969年の結成以来、世界最高峰の弦楽四重奏団として君臨してきました。互いに集中力を高めながら、常に高い音楽性を追求して行く姿に我々は感動して来ました。今日は日本でのラストコンサートから、大規模でシンフォニックな響きを持つ、シューベルト最後の弦楽四重奏曲第15番をお聴きいただきます。

病から完全復活した**小澤征爾**も話題のひとつでした。今年最後のやはりベートーヴェン。小澤の指揮する第七番で締めくくりましょう。来年もよろしくお願い致します。(中川)

◆“ウィーンの名フルーティスト”シュルツを偲んで ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト(1756～1791): フルート協奏曲第1番ト長調K313～抜粋

ヴォルフガング・シュルツ(フルート)
ズービン・メータ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(1995.11.19 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

歌劇“フィガロの結婚”第1幕～自分で自分が分からない/もう飛ぶまいぞこの蝶々 ヴォルフガング・シュルツ(フルート)/ハンスイエルク・シエレンベルガー(オーボエ) (1998.7.3 王子ホールでのLive)

◆没後50年フランシス・プーランク フランシス・プーランク(1899～1963):

バレエ組曲“牝鹿”～第1曲 ロンド/第4曲 アンダンティーノ/第5曲 フィナーレ ベルナルト・ハイティンク指揮アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団 (1977.10.14 コンセルトヘボウでのLive)

即興曲第15番ハ短調“エティット・ピアフを讃えて”(1959年作) シブリアン・カツアリス(ピアノ) (1988.3.25 サントリーホールでのLive)

2台のピアノのための協奏曲ニ短調

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)/アレクサンドル・ガーニング(ピアノ)
エラスモ・キャピラ指揮スイス・イタリア放送管弦楽団
(2007.6.7 ルガーノ、パラッツォ・テイ・コングレでのLive グラモフォンCD盤)

*** 休憩 ***

◆東京クワルテット・ラストコンサート

フランツ・シューベルト(1797～1828): 弦楽四重奏曲第15番ト長調D.887～第2楽章から、第4楽章 東京クワルテット (2013.5.21 王子ホールでのLive ～日本でのラスト・コンサートから～)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827): 交響曲第7番イ長調op.92～第1楽章、第2楽章、第4楽章 小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 (1982.6.22 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)